

【分科会3】ピアと歩む地域移行・地域定着

出演:辰村泰治、佐藤晃一、三石麻友美(さいたま市見沼区障害者生活支援センターやどかり)

コーディネーター:古屋龍太(日本社会事業大学)、中越章乃(神奈川県立保健福祉大学)

今年も多くの皆様のご参加をいただき、それぞれに立場も経験も異なる参加者が一体となってこの分科会を終えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

はじめに、コーディネーターよりこの分科会の趣旨説明と、個別給付化をはじめとする地域移行・定着支援の現況や課題について簡単にご報告をさせていただきました。

続いて、三石氏より「さいたま市における地域移行・定着支援の取り組み」として、さいたま市がこれまで目指してきた支援体制と、今後に向けて必要なシステムに不可欠な登場人物であるピアサポーターの役割について、支援場面の写真や具体例を交えての報告がありました。制度の変化にともなって、これまで以上に行政、医療機関、地域事業所が協働してのシステム構築が必要となってきます。三石氏の報告を受け、辰村氏、佐藤氏より支援の実際とこれまでの支援を振り返って思うことや、いまだ入院している方への強い思い、同じ経験を持っているからこそ発することのできる仲間へのメッセージが率直に語られました。これらのメッセージが、参加者の皆さんそれぞれに重く受け止められたのだと感じられる時間でした。

3人それぞれの報告ではありましたが、3人のチームワークの良さがこれまでの支援の積み上げを想像させてくれました。

後半には、昨年から続く試みとして、グループでの意見交換をおこないました。150を超える参加者と報告者、コーディネーターまで加わって、15以上のグループに分かれての大意見交換会となり、報告を受けての感想や現在おこなっている支援、自分の地域で取り組まれている地域移行支援などなど、時間いっぱい語り合いました。その光景はきっとすごい迫力だっただろうと思います(会場写真などありましたら、見てください!)

今後、個別給付化の影響や、地域医療計画により地域資源の一つとなる「地域の一員」としての医療機関の動きなど、状況は変化し続けるでしょう。そんな変化の中でそれぞれの立場でできることは何か? その可能性や期待について前向きで自由な議論ができる分科会でありたいと思います。

だいぶ気が早いですが(!)、来年も皆様のご参加をお待ちしています。

《中越章乃(神奈川県立保健福祉大学)》